
コラム 7

JICA 東南部アフリカ地域支援事務所の貢献

2005年当時、対アフリカ事業を増やすため、JICA 東南部アフリカ地域支援事務所がナイロビに設置されており、寺西義英所長、南部良一所員の他各分野の専門家や現地スタッフがいた。

当時ジュバに入るには、ナイロビ便が、ハルツームからの国内線よりもずっと安定しており、多くの援助機関がナイロビの事務所から事業をバックアップしていた。また、スーダン人民解放運動（SPLM）や暫定自治政府（GOSS）の幹部も家族をナイロビに残している人も多く、頻繁に出入りしていた。

JICA 東南部アフリカ地域支援事務所は、その地の利を生かして、SPLM のナイロビ事務所と早い段階からコンタクトを取り、情報収集や現地調査のアレンジを依頼するなど、事業を全面的にバックアップした。スーダン支援国会合の直後の2005年5月には、UNHCR-JICA 共催により、南部スーダン政府関係者や援助機関関係者を対象として、「紛争終結後の復興・再統合」をテーマにしたワークショップをナイロビで開催したほか、同年11月には、南部スーダン関係者をルワンダに招聘して、ルワンダの復興支援の経験を南部スーダン関係者に紹介した。また、2006年以降ジュバで事業がはじまってからは、物資の調達や安全情報の収集などでも大きな役割を果たした。

初期の立ち上げに大変役に立った SPLM ナイロビ事務所とのパイプの維持や南部スーダンの事業開始の後方支援に尽力した南部所員は、健康状態を崩し、2006年3月ナイロビで帰らぬ人となってしまった。もし、彼がさらに南部スーダンの事業に関わっていたら、もっといろいろな事業が早く展開できたと思うと悔やまれてならない。ここに敬意を表し、特記したい。

以上